



# 人権通信

2023年度 第2号  
城ノ内中等教育学校  
人権委員会・レベラーズ部

こんにちは、人権委員会・レベラーズ部です。

寒い日が続きますが、少しずつ春の便りも聞こえてくるようになりました。

さて、今回は人権講演会及び人権意見発表会の感想を、それぞれ54HR・42HRの人権委員の皆さんに、「中・高生による人権交流集会」の報告を、レベラーズ部の皆さんに書いていただきました。

## 人権講演会

○今回の講演を聴いて、部落差別について表面上で知っているつもりでも、実際には知らないことがたくさんあるということが分かりました。その原因の1つに、「軽く口に出すべきものではない」という意識から、部落差別をタブー化しすぎてしまい、話題にすることを避けようとする風潮があるのではないかと思います。しかし、いきすぎたタブー化により部落差別に触れる機会が失われてしまうと、正しい知識を得ることができず、誤った情報を信じてしまいがちになるという負のサイクルができてしまいます。正しい知識を身につけ、理解し、発信することが差別解消につながるのではないのでしょうか。

○みなさんは学校での人権学習を通して、部落差別について知っているはずですが、その中でどれぐらいの人が、自ら積極的に学ぼうとしているのでしょうか。今回の講演で、徳島における部落差別の歴史について学ぶことができました。そして、自分がいかに無知であることを痛感しました。自ら情報を集め、考えることが、差別に直面したときに反論する手助けとなります。この人権通信を読んだことをきっかけに、皆さんもぜひ自分でも調べてみてください。

## 人権意見発表会

○今回の人権意見発表会で印象に残ったのは「自分らしさ」についての発表です。それをテーマにする人が多かったということもありますが、

私自身もともと関心を持っていたのと、それぞれの考え方の違いがおもしろく、より記憶に残りました。お互いに相手の意見を尊重し合える人が増えればいいと思います。

- 今回の人権意見発表会では、今までと違う視点で物事を考えることができました。その点で特に印象に残っているのは、視覚障がい者の方についての話です。「心のバリアフリー」という言葉には、物理的なものだけでなく、一人一人の思いやりが大切だと気づかされました。
- 今回の人権意見発表会では、自分らしさについての発表が多くみられました。自分自身日頃よく考えることだったので、さまざまな価値観について知って共感することができました。自分の中にあつたもやもやが上手に言語化されていたように感じ、とても興味深かったです。
- 文章の書き方や話し方も含め、すべての人の発表が印象に残りました。身近な出来事から感じた話や、その人ならではの考え方は、自分に置き換えて考えることができ、感銘を受けました。個人的には高齢者問題について発表していた方の「ありがとうという言葉はいつでも言える」という言葉が印象に残りました。自分もこういった問題についてよく考える機会を持つと思いました。

## 中・高生による人権交流集会

- (いじめについて)シビアなテーマだったけど、他校の人たちといっしょに考えることができよかった。深く考える機会になった。
- 自分の意見を出すことができた。この会に参加するまでは引っ込み思案なところがあったけれど、参加する中で自分からしゃべれるようになったし、臨機応変に対応できるようになった。
- 学校で人権HRをしているときに、「人権なんて」という声を聞くことがあったが、この会で学んだことを、学校に持ち帰ることができれば、よりよい人権学習ができるのではと思った。
- もっとみんなと話す時間がほしいと思った。
- 自分から学ぶことや、意見を共有しあうこと、相手の意見を聞くことの大切さなどに気づいた。
- 今年は城ノ内中等教育学校からの参加者が少なかったのも、前期・後期間わずもっとたくさんの人に参加してほしい。

54HR・42HRの人権委員とレベラーズ部の皆さんの意見はどうでしたか？

これを機会に、身近な人と人権問題について考えたり、話したりしてください。

この人権通信が、人権について考えるきっかけになればと思います。

